

行ってきました!

日本女性会議
2005ふくい



平成17年10月7日(金)・8日(土)に福井市で開催された日本女性会議に、秦野市から2名の委員が参加しました。「女と男が創る豊かな未来、共に語ろう不死鳥の郷土で」をテーマに7日は基調講演・シンポジウム・記念講演会・交流会と充実したプログラムの中で「男女共同参画は活力ある社会づくりの“横ぐし”、良い地域、社会への豊かなネットワーク力を養い、具体的に進めよう」と提案されました。

8日は分科会「地域を子育ての舞台に! (講師・増山均早稲田大学教授)」に参加しました。大人になっていない親が多くなっていると言われる今の時代は、子どもが成人することで子育てが終わらず、成人した子どもやそのパートナー、また孫の代



フェニックス・プラザ (福井市)

まで子育ては続くというお話がありました。これからはますます男女協力して、地域で子どもたちを育てていくことが必要なのだという思いを新たにしました。

2005男女共同参画
NPOフォーラムinかながわ



にぎわう女性センター

平成17年11月20日(日)、かながわ女性センター(江の島)で開催された「2005男女共同参画NPOフォーラムinかながわ」に参加しました。秋晴れの江の島に、県内各市町村から大勢の方が集まり、このフォーラムを通して男女共同参画

社会の実現に向けた活動の熱い思いをお互いに共有することができました。来場者はパンフレットを手に広い会場の各部屋などで行われていた展示・発表やバザー、そしてテーマ別の各分科会に参加し、日頃の活動内容を発表する方々との交流を持ちました。

また、高校生による「女性専用車両の研究発表」も行われ、若い世代での活発な議論が男女共同参画社会を目指す上で大切なことだと感じました。



秦野市の参加者13名

女性に対する
暴力ゼロ!
啓発活動を実施



ジャスコ秦野店 (11/12)

平成17年11月12日(土)、ジャスコ秦野店において啓発活動を行いました。今回は女性に対する暴力をなくするという趣旨のもと、暴力に関することや相談窓口案内などを載せたチラシやポケットティッシュをクリアファイルにはさみ、1,200部配りました。



「殴る」「ける」だけが暴力ではありません。配偶者、パートナーからの精神的暴力も、重大な人権侵害で、決して許されるものではありません。ひとりで悩まず専門の相談員に相談してください。

平成17年度広報部員

棟田 勝之(部長)・伊藤 広生・大槻 恵子・小山田 須美恵・北村 順子・仁 義秋・富田 有美・橋本 和子・松澤 ひろみ

女性のための悩み相談

夫婦や家族の問題、こころや生き方、夫やパートナーからの暴力(ドメスティック・バイオレンス(DV))で悩んでいませんか。気軽にご相談ください。

*費用は無料、秘密は厳守します

相談日 毎月第2・4火曜日
午前10時~正午・午後1時~3時

- ☑電話相談 専用電話 (83) 1812
- ☑面接相談 予約制
- 予約・問い合わせ 市民活動推進室 (82) 5111
- 相談場所 女性相談室

【市民活動サポートセンター(青少年会館内)】

*DVなど緊急の連絡は、秦野警察署生活安全課 (83) 0110

編集後記

「女のわがまま」「男の身勝手」こんな言葉で終わりにしていませんか?もう一歩お互いに踏み込んでみませんか?相手を理解しようと思いつけることが思いやりであり、男女共同社会の推進なのです。

パートナー
PARTNER

主な内容

- 📍 地域之力 堀川中自治会
- 📍 公開学習会「生きがいあるセカンドライフの作り方」
- 📍 市民の日実施 アンケート結果報告



秦野市消防本部で行われた平成17年度初期消火コンクールで堀川中自治会(88世帯・10組)が男性の部、女性の部両方で最優秀賞。男女とも最優秀賞なんて、なにか秘訣がありそうです。堀川中自治会の青木自治会長、山口副会長、石井書記、黒坂部長(家庭防火クラブ)の皆さんにお話を伺いました。

*最優秀賞おめでとうございます。ありがとうございます。普段からの自治会活動における仲の良さで練習の成果だと思っています。自治会として防災に力を入れて取り組むようになったのは12年前の7軒も燃えた大きな火事がきっかけでした。実際の災害時に「焦るな!」というのは無理。訓練することによって体が自然に動くようになればいいなと思っています。

*堀川中自治会自主防災会はどのような活動をしているのですか?

自主防災会には救出救護班、消火班、情報無線班、避難誘導班、給食給水班の五つの班を組織して、防災訓練を行っています。自治会の自主訓練として消火班の指導でバケツリレー、防災倉庫の点検、避難路の点検、あらかじめ把握している災害時要援護者の名簿をもとに避難誘導の訓練を実施し、88世帯の

自治会の会員に防災意識の高揚と防災対策の習熟に努めています。

*これからどのように活動を進めていきますか?
会員が興味を持って参加できるように、今までの訓練をさらに充実させ、防災意識を高めていきたいと思っています。今後は防災だけでなく防犯に対しても地域で取り組んでいくために、新たに防犯懇談会を行いたいと考えています。

災害は老若男女関係なく、ある日突然襲ってきます。そんなときにチカラを合わせることができるよう、初期消火コンクールなどの機会を利用して「普段から息が合うように」しておきませんか?地域之力を強めるために日ごろ努力している堀川中自治会の皆さんの取り組みを参考にしたいですね。

2006. 3. 1 発行 No.25

発行はだの市民が創る男女共同社会推進会議
事務局 秦野市役所企画部市民活動推進室市民活動支援班
秦野市桜町1-3-2 TEL0463-82-5111
FAX0463-82-6793
e-mail s-katudo@city.hadano.kanagawa.jp



生きがいある セカンドライフの作り方

1月14日(土)本町公民館において、「生きがいあるセカンドライフの作り方」をテーマに、公開学習会を開催しました。人生80年時代の中で夫婦として、また一人の個人としてどう生きていくかを考えるために、西山昭彦氏(東京女学館大学教授)による基調講演と、参加者によるワークショップを実施しました。
以下学習会の内容をご紹介します。参加者73名(女性65名、男性8名)

講師紹介

東京女学館大学教養学部教授。専門は、経営学の中のリーダーシップ、人材育成。ライフテーマはビジネスパーソンの一生の研究。大学生の就職活動やサラリーマンの定年後の生き方なども研究中。人生の目標は著書100冊、海外旅行世界一周、レストランめぐり1万軒達成。

基調講演

▶ 団塊の世代が定年を迎える ◀

団塊の世代の人口は、他の世代に比べ1.3倍も多い世代です。そのため、小さい頃から競争を続け、パワフルな世代といわれています。職場結婚、家族寮、会社融資の住宅購入、住宅ローンの給料天引き、また定年後は公的年金に企業年金が上乗せされるなど、便利な仕組みの中で生きてきた世代でもあります。在職中は仕事が自然に回ってきて、生きがいを感じることもでき、家を建てたり、子供を育てたりして、夫婦共通のテーマもあります。

▶ 「亭主元気で留守がいい」 ◀

これは1986年のCMで一番ヒットした文句です。実際、定年後の夫婦に男女別で聞いてみると、夫の側では「うちは円満で」と言っていますが、妻の側では、一日中夫が家にいることや食事の支度などで、一度夫の悪口が出ると尽きません。定年後は、家計や行動パターンに変化が出てきます。

▶ 老後の家計調査 ◀

老後の一般的な生活資金は家計調査によると夫婦

で月29万円必要です。月の収入平均は26万円です。3万円足りないのが今の平均値です。たまに旅行に行ったり、外食をしたりする生活には月38万円必要で、月に12万円を何らかの形で補てんできる別の収入があると理想的な生活ができるといわれています。

▶ 定年後の居場所 ～仕事オンリーだった人のために～ ◀

定年になって一番大事なことは、自分の書斎、自分の居場所をつくることです。それから、在職中に培った関係を生かした仕事を細々としましょうということです。私が調査した中に、以下のような事例があります。

- ① 一人自営：投資をせず、自分の書斎をオフィスにしてやる方法です。売り物は、在職中、自分が従事し、会社から評価された仕事です。やめる会社からアウトソーシング(外部委託)するか、会社で培った人脈から始めることができます。
- ② 仲間づくり：60歳以上の仲間が10人ぐらい集まった会で、事務所を借りて仕事をするという方法です。毎日の勤務で1年間の所得が70万円では割に合わないようですが、その人にとっては仕事のプロセスや活動をしていること自体が目的であり生きがいなのでしょう。定年になって退職金や年金もあるので、お金はあくまで結果なのです。

ワークショップ

参加者の声

テーマ 人生80年時代における家庭の役割

人生の目標はどこまで達成できて、何が達成できていないか。

- 達成 子育て・マイホーム・定年退職
未達成 地域への参加・夫からの経済的独立・自分らしさの確立・子どもの結婚・ボランティア活動・趣味・旅行

達成できていない目標に向けて活動する中で、必要なものは何か。

- 夫婦や家族の協力・思いやり・努力・理解・会話
- 地域社会や人とのつながり
- 健康 ● 資金 ● あきらめない前向きな気持ち

定年後二人世帯における家庭の役割とは何か。

- 自分のことは自分でやることを基本にお互いに助け合って家事の分担をする。
- お互いに思いやり、健康に気遣う。
- パートナーの死後の自立に向けて準備をする。
- 定年後は目標や趣味を持ち、自分を育てる。



7つのグループで話し合う参加者

講師まとめ

▶ 幸せの方程式 ◀

商人だった伊能忠敬は、定年後56歳から10数年かけて日本地図を作りました。私たちは、家族のことに追われて一生を終えてしまうような国には存在しない、定年後20年の自由な時間、いわゆる「歴史の発達段階の奇妙な時間」をもらいました。それは一度終わってから再出発するのではなく、今から出発するもう一つの人生だと思います。仕事や趣味などに挑戦し、達成した喜びを人々と共感、共有する社会参加が、私たちの生きがいにつながります。「自分+家族+友人+社会参加+健康+お金」、これが幸せの方程式です。定年後の家庭の定義は「個を大切に助け合

うプロジェクトチーム」です。夫婦がこれまでやってきた生活の共有はひと段落しました。これからは個に帰り自由にやるときに、お互い束縛せずに尊敬し合い、助け合い、支援し合う関係なのです。夫婦が共通する行動や趣味を必ずしも持つ必要はないと思います。

私が恩師に「先生、70歳(定年)を過ぎたらもう研究できなくなりますね」と聞くと、「西山君、研究者というのは生涯一人でもずっと続けるんだよ。それを大学が家でもやるだけの違いだよ」と答えました。この老先生のように目標を持ち続けて最後の一日までも社会参加し続けていこうとする生き方が、皆さんの生きがいあるセカンドライフのヒントになるのではないでしょうか。

市民の日アンケート

調査結果

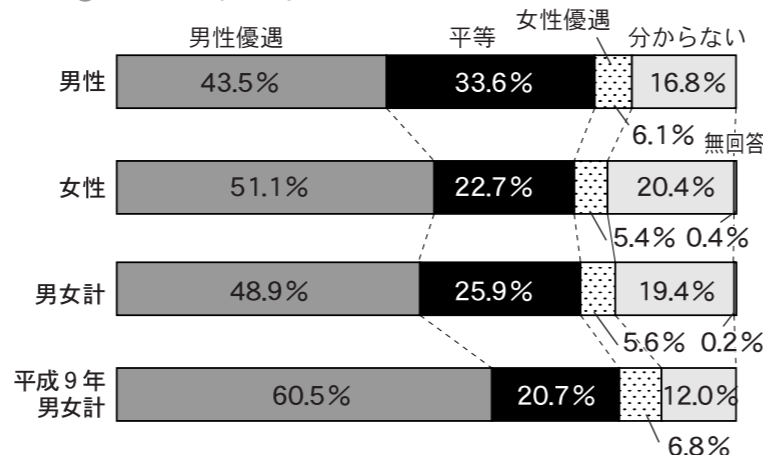
11月3日(木)市民の日にアンケート調査をしました。ご協力いただいた方は10代から80代までの444名(男性131名、女性313名)でした。アンケート結果は今後の活動を進める上での参考にさせていただきます。ご協力ありがとうございました。



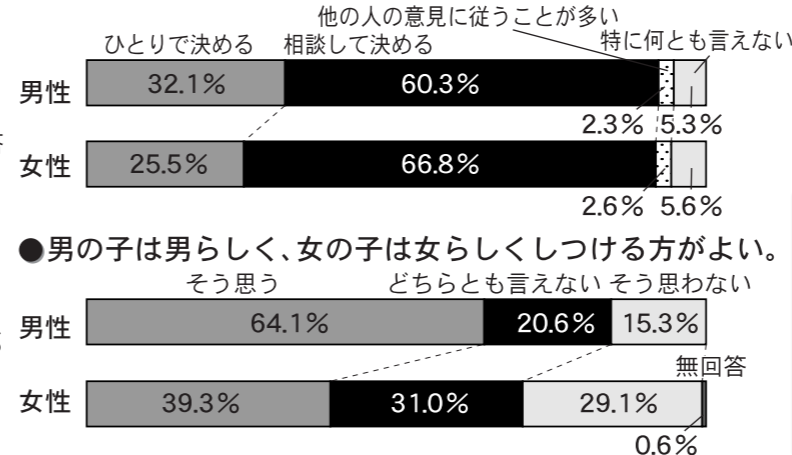
アンケート調査の様子

(紙面の都合上、調査結果は一部抜粋して掲載します。)

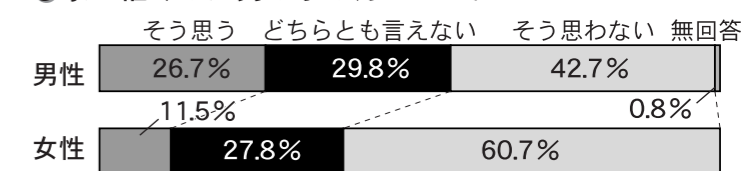
● 男女の地位は平等になっていると思いますか。



● あなたは自分の行動や意見を主体的に決めていますか。



● 家を継ぐのは男の子の方がよい。



平成9年の調査結果と比べると、男女の地位が平等になっていると考える人の割合が今回約5ポイント増えています。また、男女の意識の違いで比べると、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てたい」と考える男性は、女性の1.6倍、「家を継ぐのは、男の子の方がよい」と考える男性は、女性の2.3倍以上となっています。あなたのご家庭では、どう考えますか。